

# 小論文

◆人間発達学部（子ども教育学科）

学校推薦型選抜Ⅱ期

**課題** 次に示す「こども基本法（1）」の基本理念および「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）（2）」の4原則を参考にし、子どもの権利が守られていないと思う事例を挙げ、子どもの権利を守るためにはどのような仕組みが求められるか、あなたの考えを五百字以上六百字以内で述べなさい。

【「こども基本法」の基本理念】

1. すべてのこどもは大切にされ、基本的な人権が守られ、差別されないこと。
2. すべてのこどもは、大事に育てられ、生活が守られ、愛され、保護される権利が守られ、平等に教育を受けられること。
3. 年齢や発達の程度により、自分に直接関係することに意見を言えたり、社会のさまざまな活動に参加できること。
4. すべてのこどもは年齢や発達の程度に応じて、意見が尊重され、こどもの今とこれからにとって最もよいことが優先して考えられること。
5. 子育ては家庭を基本としながら、そのサポートが十分に行われ、家庭で育つことが難しいこどもも、家庭と同様の環境が確保されること。
6. 家庭や子育てに夢を持ち、喜びを感じられる社会をつくること。

【「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」の4原則】

1. 生命、生存および発達に対する権利（命を守られ成長できること）
2. 子どもの最善の利益（子どもにとって最もよいこと）
3. 子どもの意見の尊重（意見を表明し参加できること）
4. 差別の禁止（差別のないこと）

この4つの原則は、それぞれ条文に書かれた権利であると同時に、条約で定められているあらゆる権利を考える際に、常に合わせて考えることが大切とされている。

（1）こども基本法——日本国憲法および児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）の精神にのっとり、全てのこどもが、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指し、令和5年4月に施行された。（こども家庭庁ホームページより引用し編集）

（2）児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）——1989年に国連で採択された、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約。18歳未満の児童（子ども）を権利をもつ主体と位置づけ、おとなと同様にひとりの人間としての人権を認めている。また同時に、おとなへと成長する過程において、子どもには年齢に応じた保護や配慮が必要な面もあるため、子どもならではの権利も定めている。（公益財団法人日本ユニセフ協会ホームページより引用し編集）

（時間60分＝600字）